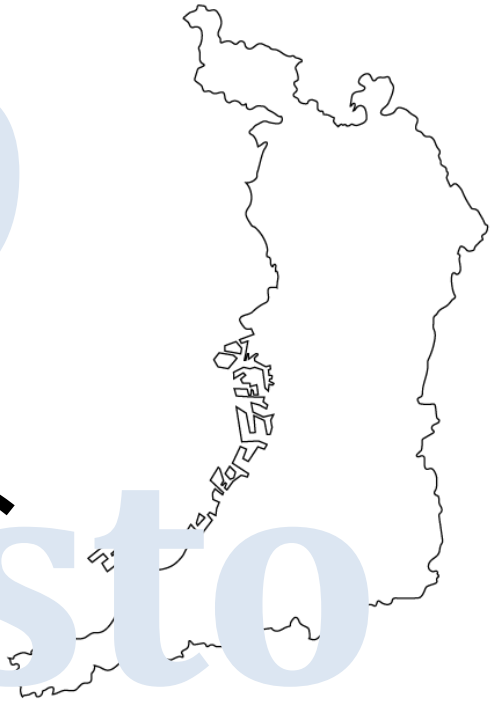
2019

大阪維新の会
豊能町マニフェスト

Manifesto



大阪維新の会　マニフェスト2019

大阪府域全体の広域戦略を進めるとともに、
府内各自治体、及び中広域ブロックから総合的に施策立案を展開していく

府内各市町村版

大阪府域版

北摂ブロック版

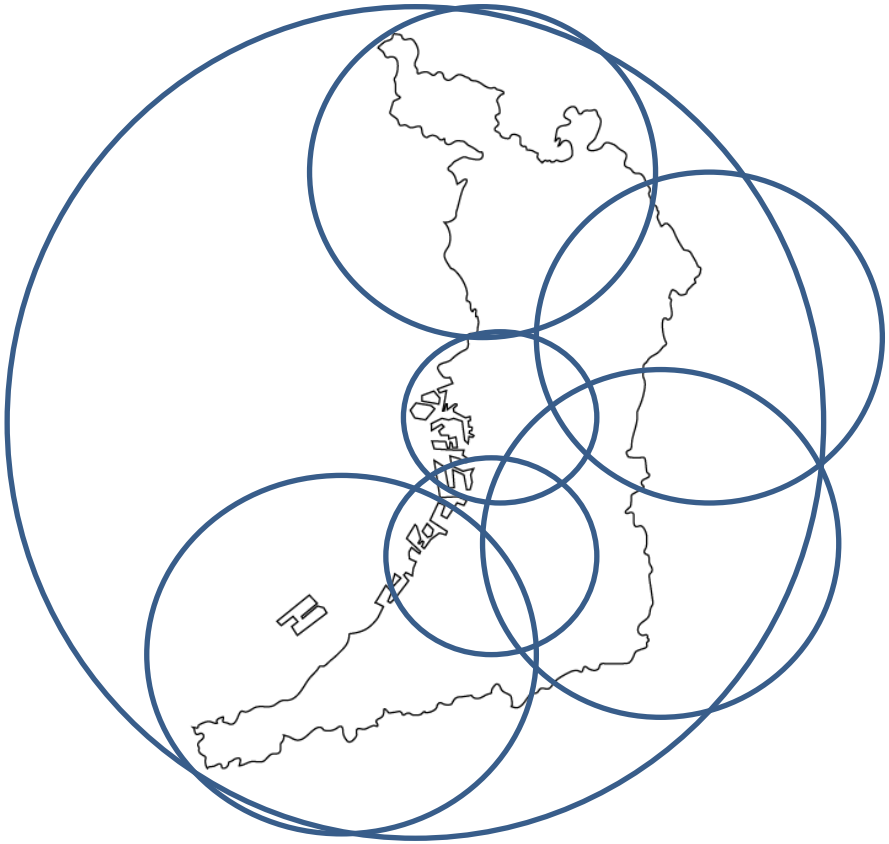
北河内ブロック版

大阪市域版

中・南河内ブロック版

堺市域版

泉州ブロック版



2019統一地方選挙　大阪の成長を止めるな

項　目	具体的施策	現状・課題認識
近未来型の官民連携事業PPP・PFI積極的に活用	佐賀県みさき町の例	町づくり政策によって、合計特殊出生率＝0.82を改善し、魅力ある町を再生する。部分最適ではない全体最適の観点で、町づくりを行う。 これからは新しい時代に合った公共経営が求められています。 国も近未来型の官民連携事業（PPP・PFI）を優先的検討規定と位置づけ閣議決定しています。積極的に活用すべきと考えます。
教育日本一のまちづくり	現在、教育委員会が、保幼小中一貫校については、プロポーザルにより、安井建築設計事務所を選定。	豊能町では、教育委員会が、出生率を元にしたデータでは、5年後は、東地区の入学者数が、10名程度となり、非常に、子どもが減ってくる。子どもたちのために、充実した教育環境を整えていく必要がある。
幼稚園・保育所民営化	豊能町公立3園負担額3億5千万円、保護者負担額5千6百万円完全民営化	平成27年度実績で保育所・幼稚園・こども園3園の事業費が、3億5千万円かかっている。これが、完全民営化であれば、町負担額は、9千万円であり、差額の2億6千万円の財源を捻出できる。保護者負担分5千6百万円を完全無償化できることになる。民営化は、時代の流れであり、豊能町が一番欲しい世代・世帯で、担税力のある人が、移ってくることも可能になる。
私立高校の誘致	大阪府下の高校は、公立、私立に拘らず原則無償であるから、幼児保育料＝所得制限なく無償下して、高校無償化、公営優良賃貸をPFIで、町負担なしで建設。	豊能町から１時間以内で通学できる高校はない。通学費も高額で、近隣自治体も学力は比較的高い地域であるが、私学がない。

2019統一地方選挙　大阪の成長を止めるな

項　目	具体的施策	現状・課題認識
情報のクラウド化・共同化	豊能町・河南町・千早赤坂村グループ「平成29年度自治体クラウド・モデル支援事業」	クラウドコンピューティング技術を活用し、自治体の基幹系情報システムの集約と共同利用を進めることにより、システム経費の削減や住民サービスの向上等を図る。また、データセンターを活用することで、行政情報を保全し、災害・事故等発生時の業務継続を確保する。
太陽光発電の条例制定を図る	国・府・市町村が連携・情報共有し、太陽光発電施設の地域との共生を図る「大阪モデル」の構築を目指す。	新光風台では、2件の太陽光発電トラブルが起こっている。1つは、新光風台4丁目の山側に、宅地造成等規制法に違反し、無許可で、大量の残土が搬入され、その上に、大規模な太陽光発電施設が、設置された事案。2つは、兵庫県川西市に計画中の施設であるが、隣接する豊能町側の住民が、防災や景観の阻害等の点を懸念し、設置自体に反対している事案。この太陽光発電トラブルにより、新光風台の住居は、資産価値も大幅に低下している状況であり、更に、土砂災害、突風災害をはじめ、公害・騒音・交通被害など、住民の方は、不安に思い、早期に解決してほしいと願っている。
ダイオキシン問題の早期解決	豊能町内で、仮置きされている廃棄物は、外部へ飛散や溶出がないようにコンクリート固化されている。これらの廃棄物を最終処分する方法としては、廃棄物処理法上、大きく分けて2つあると考えられている。①熱分解により、中間処理し、埋立処分する方法②現状のまま直接埋立処分する方法「１００円商店街」や「箕面3駅はしご酒」への支援	平成9年以降、長年処理できずに保管されてきたばいじん等の一般廃棄物について早急に最終処分する必要がある。がある。

2019統一地方選挙　大阪の成長を止めるな

項　目	具体的施策	現状・課題認識
北大阪急行延伸によるバスの再編成・交通利便性の向上	H32年の北大阪急行延伸に向けて、利便増進、広域交通の活性化に取り組む	豊能町では、現在、大阪府下で、高齢化率が、トップレベルに高い状況である。今後、5年後、10年後は、更に、高齢化率が高くなり、買い物、病院を心配される住民が、増えてくると思われる。平成32年の北大阪急行延伸に向けて、現在の豊能町の東西のバスのあり方を検証し、箕面新駅を拠点とした広域的な再編を進める必要がある。平成32年を目処に、阪急バスの箕面森町線をときわ台駅へ延伸することが進められているが、希望ヶ丘や東地区は、電車が通っていないため、交通は、バスのという状況であり、今後、希望ヶ丘から、箕面森町を経由して、箕面新駅に行けるようなバスの再編をすると、今後、高齢化率も高くなって、運転できなくなる住民の方も増えてくると、バスの利用者も増えて、利便性も向上すれば、外から人を呼び込むことも可能になる。平成32年の北大阪急行延伸に向けて、大阪府、箕面市、阪急バスの意見交換の場では、広域交通の活性化、利便増進の観点からも、ときわ台だけでなく、希望ヶ丘や東地区のバスの再編も、検討する必要がある。